

漁況予報 い わ し

第183号

【2014年5～6月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月は小田原や真鶴を中心とした西湘地区でまとまった大羽マイワシの来遊があったこともあり、253トンと前年(2.4トン)及び平年※¹(48トン)を大きく上回りました。これは沖合海域からの暖水波及によるものです。4月は一転して不漁傾向となり3トン(速報値)で、不漁の前年(7トン)を若干下回り、平年(105トン)を大きく下回りました。

まき網は、東京湾側で漁獲がなく、相模湾側では3月に1ヶ統が5トン程度水揚げをするに留まりました。

魚体は、3月に西湘地区で漁獲されたものは被鱗体長※²(以下同)19-22cmの大羽マイワシ主体でしたが、他の期間は13-15cmで2013年生まれの1歳魚主体でした。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、3月は203トンで、不漁の前年(27トン)を上回りましたが平年(367トン)を下回りました。4月は150トン(速報値)で、不漁の前年(184トン)並みで平年(322トン)を下回りました。西湘地区では2月までまとまった来遊でしたが、前述のとおり大羽マイワシの大量来遊と入れ替わるようにパツタリ獲れなくなり、佐島から鎌倉地区の定置網で断続的な漁獲となりました。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲し、佐島地区(1ヶ統)では2ヶ月計63トンの水揚げがありました。魚体は、8-10cmの未成魚～小型成魚主体に12-13cmの大型成魚が混じりました。

【シラス】

相模湾のシラス漁は3月11日に解禁となりましたが、3月中は相模湾内の水温が平年と比べ1～2℃低く推移したこともあり、シラスの来遊に不向きな状況が続き、全域で殆ど漁獲がなく推移しました。4月に入ると15℃の暖水波及と共にシラスの来遊が始まり、一気に漁期入りとなりました。2, 3回の網入れで加工量上限に達して早々に操業を切り上げる船も出る程で、4月としては1990年以降で5, 6番目に多い漁獲量となりました。(前年比2.1倍、平年比1.5倍)

3, 4月の漁獲物はカタクチシラス(カタクチイワシ仔魚)主体ですが、過去2年と比べマシラス(マイワシ仔魚)の混獲量が多かった模様です。

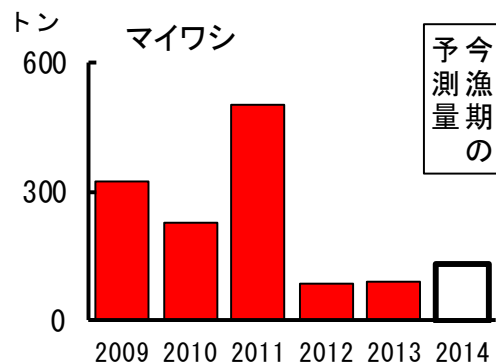
= 予 報 =

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2013年生まれの小羽マイワシ（13～15cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、3～4月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を上回る約130トンと予測されます。

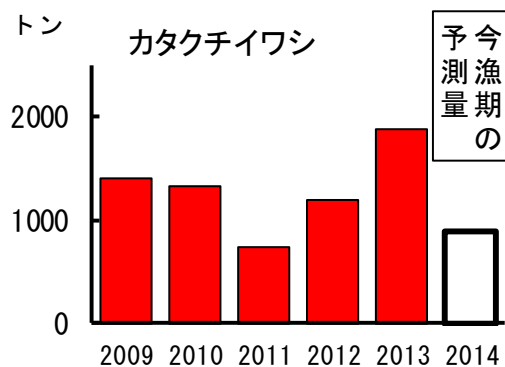


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、大型成魚（12～13cm）が漁獲の主体となり、期の終盤には小型成魚（10～11cm）が主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を下回る約895トンと予測されます。

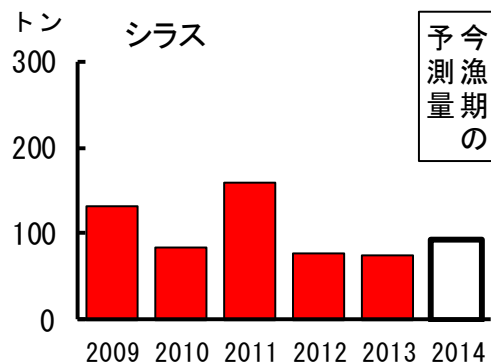


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、4月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年をやや上回る約93トンと予測されますが、引き続きカタクチイワシ成魚が漁場に滞留し続けた場合は、予測値をさらに下回ることも考えられます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2313